

2014年度

利用者の声

●Nさん

私は中学1年生の時からなかなか学校へ通うことができませんでした。不登校になったばかりの頃は外にも出られませんでした。

鈴蘭学園はみんなが思う学校やフリースクールと違い、少人数ですごくフリーダムで先生もボランティアの先輩、同じ生徒の仲間、皆優しく私にとっては一番心が落ち着きました。卓球、UNO、お絵かきクイズゲーム等をやりました。お絵かきクイズは皆の絵心がとてもわかり、UNOは特殊カードを作り、さらに難易度を上げてやっています。難易度を上げ過ぎて1回戦が終るのに1時間以上かかるのは日常茶飯事になったり、どれもとても印象に残っています。鈴蘭学園のおかげで私服でいろんなところに出歩けるようになりました。

卒園後は高校に通いながら、これからはボランティアとして鈴蘭学園を手伝いたいと思っています。

●M君

おもしろくて楽しい中村先生、温かいみんな、どうもありがとうございました。

保護者の声

●Nさんのお母さん

鈴蘭学園との出会いは、娘が中学1年生の夏でした。

中学に通い始めて間もなく不登校に陥ってしまった娘に居場所を作ってあげたくて、ネットで情報を探しまわっていました。その時、神奈川県が発行していたフリースクール見学会のプリント内に鈴蘭学園の名前を見つけたのです。何ヵ所かのフリースクールを娘とともに見学・体験しましたが、本人にとって最も気持ちが落ち着いたのがここでした。

あれから、約2年半。

かけがえのない時間を過ごさせていただいたと思います。

小・中学校での理不尽なひどい仕打ちに苦しんだ記憶から、特に同年代に対する不信任と否定的感情に支配され、最初の頃は家でTVを見ていても少しでも学校やいじめなどの話題があると暴言を吐き食事すらとれずに布団に丸まる娘の姿に胸がつぶれる思いでした。園に楽しく通っているようでも、時にささいなきっかけで気持ちがささくれ立ったり、皆の遊びから離れ独りでいたくなったりすることもあったようでした。

そんなとき、先生やスタッフの皆さん、そして園の仲間は、ごくごく自然に温かく接してくれました。

普通はフリースクールといえど、どうしても集団にいると「浮く」ことを気にしなければならなかったり、逆に自由すぎて孤独を感じたりということがあったりするのですが、園では本当の意味でまったりと自然で気を張ることがなく、時に卓球などで熱中し、時に全員でのおしゃべりに夢中になり、時にゲームをしている皆と一緒に、でも加わずに漫画を読んだりなど自宅にいるようなリラックス状態で過ごせたようです。

彼女は変わりました。本当に不登校生？と笑ってしまうほどアクティブです。そしてほぼ園には皆勤で通ってきました。

当時、現高校生だったボランティアの先輩たちのまぶしく素敵な姿に自分でも刺激され、学校の授業を受けないまま独学で英検3級も取得しました。学校という場所に戻ることに恐怖と葛藤を抱きながらも、自ら高校の説明会や見学に赴き、受験し、合格もいただきました。

その成長ぶりには親から見ても目を見張るばかりです。

でも、一番の成長は、なんといっても『仲間といるって楽しいな』と感じられたこと。あの地獄のような人間不信の底なし沼から、鈴蘭学園の先生をはじめ仲間皆に救いあげられ、娘は自分を取り戻す事が出来ました。暗かったあの目が、園に通うにつれ生き生きと変わっていく様はなかなかお伝えできる言葉が思い当たりません。

本当に鈴蘭学園での生活は、娘にとって学校よりもずっとずっと大切に貴重な財産となったと感じています。

家は最も土台となる基地ですが、万能ではありません。

やはり娘にとっては、わかりあえる、そしてわかちあえる『仲間』が必要だったようです。それが鈴蘭学園で出会ったすべての皆さんとのつながり。娘にとって大好きな仲間が出来ました。

これから高校に入学し、まずは高校生活になじむのにも時間がかかり心理的葛藤も続くとは思いますが、心配はしていません。心のよりどころとなる仲間がいる娘は、たぶん昔と違うからです。

高校生活が落ち着いたら、今度は後輩たちや新しく入る園の生徒さん達へ何か役立つお手伝いをしたいと新たな希望も持っているようです。

先生がた、ボランティアのお兄さん、お姉さん、生徒の皆、心から感謝しています。そして今後もずっと、よろしくお願い致します。

●M君のお母さん

いつも明るく温かく迎えてくださった中村先生、そして皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。

長い間、自分の部屋に引きこもって出てこない子が、鈴蘭学園にだけは行くと言いました。

入園して少しずつですが、固く暗い表情が笑顔に変わりました。そして、見違えるように自信と元気を取り戻し、毎日登校するようになりました。

お陰様で今春は高校生になり、卒園となりました。これからも鈴蘭学園は本人の心の中にあり、安心感を与え続けてくれる大切な存在と思います。

いつまでも鈴蘭学園が、子供達や保護者の心のよりどころでありますようにと願っております。

中村先生、どうぞ益々お元気で御活躍ください。

親子共々支えてくださり、どうもありがとうございました。子供だけでなく、いつも母親の私の気持ちも先生に救われていました。

もし迷われている方がいらっしゃいましたら、ぜひ勇気を出して鈴蘭学園を訪ねてみてください。

2015年度

利用者の声

●Wさん

私は高校一年生の10月頃から鈴蘭学園に通い始めました。初めは「また学校に居た時のように孤立してしまうんじゃないか」と不安でした。しかし先生や園の仲間と接する内にそんな心配は必要無かったと実感しました。

学校ではどんな事も早く早くと急かされているような気がして、あれをしなきゃ、これもしなきゃと焦りや不安でいっぱいでした。ですが、鈴蘭学園では無理に何かをしなればいけなかったり、焦りを感じる事も無く全部自分のペースで良いのです。のんびりしていて居心地が良くて、園の中は他とは違う空気が流れているように感じました。

鈴蘭学園は私にとって安らげるとても大切な場所です。半年という短い間でしたが、本当にありがとうございました。もっと早く鈴蘭学園に出会いたかったです！

卒業後も、ボランティアとしてお手伝い出来ればと思っています。

保護者の声

●Wさんのお母さん

今春3月で卒園となり、4月からは新しい高校の2年生として無事転入する事が出来ました。全て園に通っていたお陰と中村先生、スタッフの皆様、仲間に迎えてくれた生徒の皆さんに心から感謝しています。

娘は高校一年の2学期から、突然通えなくなってしまいました。体を震わせ頭を抱え込み「息が苦しい」と訴えてきました。行かなくちゃ！とは思っても、「どうしても体が動かない！」と言うのです。そして何度か話し合っているうちにやっと、中学に入学して間もなくクラスの男子に心ない言葉を浴びせられ、傷付き辛かった事、中学だけは卒業しなくてはいけないと思い、3年間自分なりに頑張った事、心配掛けたくなかったから言えなかった等々話してくれました。

本当に驚きました！

中学の頃、確かに朝になると、頭が痛いお腹が痛いと言って休む時もありましたが、家では全く変わらずいつも明るく元気だったからです。ただ、高校は「穏やかで近い所に通いたい！」と言うので、私立を推薦で受け通い始めましたが、自分から声を掛ける事も出来ず孤立していった様です。

何も気付いてあげる事が出来なかった自分を責めました。どうしてあげたら良いのか悩んでいた時、知り合いでもあった中村先生に面談して頂き、週に一度通わせて頂きました。

暫くは電車に乗るのを嫌がり通うのも大変でしたが、何度か通ううちに友達も出来、だんだんと楽しくなっていき「卒園したくない！」と、寂しそうでした。

半年間と短い間ではありましたが、園に通えたお陰で新しい高校にも電車に通える事が出来ました！本当に感謝感謝の思いで一杯です！

まだまだ「緊張する」と言いながらではありますが、娘と二人一歩一歩進んでいきたいと思います！

中村先生、関わって頂いた全ての皆様、本当にありがとうございました m(_)_m